

MIS008-02

会場:展示ホール7別室2

時間: 5月27日09:15-09:30

北海道における地震関連大気圏擾乱方位測定

Measurement of pre-seismic atmospheric anomalies in Hokkaido, Japan

山本 勲^{1*}, 森谷 武男², 鴨川 仁³

Isao Yamamoto^{1*}, Takeo Moriya², Masashi Kamogawa³

¹岡山理科大学工学部, ²北海道大学火山研究観測センター, ³東京学芸大学物理学科

¹Dpt. of Info. Comp. Eng., Okayama Univ., ²Inst. Seis. & Volc., Hokkaido Univ.,

³Dpt. of Phys., Tokyo Gakugei Univ.

地震発生数日前に、見通し外の送信点から発信されたVHF帯電波が異常伝搬によって受信される現象がある(Fujiwara et al., Geophys. Res. Lett., 2004)。これらは震央の上空において電波の散乱ないしは反射で生じていると考えられている。もしこの現象を、VHF帯電波干渉計で測定すれば、散乱地点の詳細な決定ができると思われる。故に、山本らは、VHF帯電波干渉計を開発し、精度良く電波の到来方位決定できるようにした(Yamamoto et al., Proc. Jpn. Acad., 2009)。一方、北海道でも地震に先行すると思われる大気圏擾乱が数多く報告されている(Moriya et al., Geophys. J. Int., 2009)。そこで、ノイズも電波の混信も少ない北海道では、観測事例が期待できるため、我々は、VHF帯電波干渉計を落石岬、広尾、弟子屈に設置した。発表では、速報的な観測結果を紹介する。

キーワード:地震,電離圏擾乱,大気圏擾乱,電波伝搬,電波干渉計

Keywords: Earthquake, Ionospheric Anomaly, Atmospheric Anomaly, EM Wave Propagation, Interferometric Measurement